

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：こども学 英語表記：Child Study ナンバリング：2201		単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：金子智栄子 担当形態：単独
科目/系列	保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	/		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 「こども」についての概念を理解できる。 2. 保育所・幼稚園において展開される日々の活動が「保育のねらい」に基づくものであることの認識を深めることができる。 3. こどもにとって欠かすことのできない「遊ぶ」をはぐくむために保育者としての役割を理解することができる。			
【授業の概要】 心理学、社会学、文化人類学等、様々な見地から「こども」を概観し「こどもの文化」を捉えた上で、「昔遊び」など実際に保育で取り入れたい内容を実践的に学ぶ。 また、現代の「こども」を取り巻く問題、保育者の役割や保育の課題等について考える。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・こども学での「学び」 第2回：こども学の領域と子どもという概念 第3回：私がこどもだった頃 第4回：幼稚園教育要領・保育所保育指針から「こども」を考える 第5回：こどもにとって遊びとは 第6回：こどもの遊び①～自然を素材にして遊ぶ 第7回：こどもの遊び②～環境を素材にして遊ぶ(サウンドスケープ) 第8回：こどもの遊び③～廃材を素材にして遊ぶ 第9回：こどもの遊びと文化・伝統・風習 第10回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは①～こども理解 第11回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは②～保護者理解 第12回：こどもの「遊ぶ」を育む保育者の役割とは③～環境理解 第13回：遊びを学びにつなげる 第14回：保育者として必要な資質とは何か 第15回：まとめと授業内試験		【授業時間外の学習】 ・毎回の講義について復習し、学びや気づきの整理、課題などに取り組む (授業ごとに1時間程度) ・日頃からこどもと触れ合う機会を多く持ち、また公園等でこどもの様子を意識的に観察することで、自分がこどもだった頃との違いを考えておくこと。	

定期試験：なし	
【授業の方法】 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートなどをもとに討議し、講評する。	
【テキスト】 『共に育ち合う保育者をめざして』 金子智栄子(編著) ナカニシヤ出版 『保育者の力量を磨くーコンピテンス養成とストレス対処ー』 金子智栄子(共著) ナカニシヤ出版	
【参考書・参考資料等】 適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 本授業の到達目標については試験(70%)によって評価し、学習意欲・自発的授業参加についてはリアクション・ペーパーや課題(30%)によって総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。	
【履修上の注意】 目的意識を持って授業に臨むこと。授業終了時にリアクション・ペーパー(「まとめと振り返り」用紙)の提出を求める。自分の考えを整理し、自らの言葉で伝える力を身に付けること。	
実務経験の有無：有	実務経験：スクールカウンセラー、臨床心理士、 日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー
【実務経験を生かした教育内容】 愛着形成の重要性について具体的に理解できる授業を行う。	